



「前立腺がん」が急増しています



がんと診断される人は高齢化など全体でも増加傾向であるが、「前立腺がん」の増え方には警鐘をならしたい。

国立がん研究センターがん情報サービス「がんの統計」2022年版によると、2008年には罹患者が51,534人だったが、2018年には過去最多の92,021人、僅か10年で倍近く増加、部位別では胃がんに次いで4番目だったが、急増で2017年、2018年は最多部位(1番目)となっています。

これは単に高齢化だけでは片付けられない。もともと欧米人に多かった前立腺がん。食生活の欧米化が大きな理由と考えられます。

残念なことに死者数も増加しており、今年2月には俳優の西郷輝彦さんがなくなったことで知られています。

前立腺がんは50歳を過ぎた頃から急激に増え始めます。

前立腺がんはゆっくり進行し、生命に影響のないがんなどとも言われるが「QOLの低下」は重要な問題です。

(頻尿、尿漏れ、ケア用品携行など様々な面で生活の質が下がる)

最近では使用済み尿漏れパッド等を捨てるために男性トイレにもサニタリーBOX(個室専用ゴミ箱)の設置する自治体も出てきています。



「前立腺がん」の早期発見には前立腺の細胞から分泌されるたんぱく質の値を計る「PSA 検査(採血)」が有効とされ、既に導入している自治体は78.1%(2020年現在)に上り、世田谷区も60歳以上の区民を対象に導入されており、区内335ヶ所の医療機関で受けることができます。

※世田谷区が行う検診を受けられるのは生涯1度

※対象年齢は、令和4年4月1日～令和5年3月31日の間に迎える年齢(令和5年3月31日時点での年齢)

是非 1 度利用してみてもは。



※PSA をつくらない(値を上げない)前立腺がんもあります。排尿に違和感等あれば泌尿器科を受診ください。